



■景観の特徴、地域特性

毎年11月3日に開催される稲穂祭の催しのひとつで、きつねの面をかぶった嫁入り行列が旧山陽道沿いの福德稲荷社から周防花岡駅までの間を練り歩く。旧街道沿いには、昔ながらの造り酒屋など古い建物が残っており、祭りの景観と調和している。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

稲穂祭は、法静寺境内にある花岡福德稲荷社で行われる。法静寺には、住職がなくした数珠をみつけてくれた白狐の夫婦を手厚く供養したことから、失せ物、たずね物が見つかるといういわれがある。

■景観の見方（主な視点場）

花岡八幡宮前付近から見ると、昔ながらの古い建物と調和した祭りの風景を楽しむことができる。



アクセス

- 所在地：下松市^{すえたけかみ}末武上^{すえたけかみ}
- 電車：JR岩徳線^{がんとく} 周防花岡駅^{すおう}～徒歩で約5分
 - 車：山陽自動車道徳山東ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

瀬戸内海国立公園に属した笠戸島は自然美豊かで、観光資源や景観スポットに恵まれている。瀬戸内に沈む夕日を楽しむスポットも多く、特に笠戸大橋の近くにある夕日岬はよく知られている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

笠戸大橋は、橋の長さ約476mであり、開通した昭和45年には県下最長の橋であった。橋によって人々の行き来が容易となり、多くの人々が笠戸島の景観を楽しむようになった。笠戸島から見えるはなぐり岩は、牛の鼻に手綱を通す鼻ぐりに形が似ていることからこの名が付いたといわれている。

■景観の見方（主な視点場）

特に冬の夕日岬からはなぐり岩にかかる夕日を見るのが美しい。



アクセス

所在地：下松市笠戸島

●電車：JR山陽本線下松駅～

バスで約15分（池ノ尻）

●車：山陽自動車道徳山東ICから約15分



写真提供：フォトコンテストin室積秋祭り実行委員会 田中理夫さん

■ 景観の特徴、地域特性

早長八幡宮の秋祭りは、光市の代表的な祭りである。台若^{だいわ}、鳥居^{とりい}、石燈籠^{いしどうろう}などの山車があり、山車行列全体が神社の形態をなしていることから、「駆ける神社」といわれている。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

早長八幡宮の秋祭りは江戸時代から300余年続く山車曳き祭りである。神社の形態をなしている山車行列は珍しく、山車10輛と踊山^{おどりやま}1輛は昭和56年に光市有形民俗文化財の指定を受けた。

■ 景観の見方（主な視点場）

室積交差点の歩道橋の上や早長八幡宮前で見ると、迫力のある祭りが楽しめる。



所在地：光市室積
 アクセス ● 電車：JR山陽本線光駅～バスで約20分(室積)
 ● 車：山陽自動車道徳山東ICから約30分



■ 景観の特徴、地域特性

海商通りの周辺には、「あいご」と呼ばれる、人ひとりがすれ違えるほどの小路が網の目のように張り巡らされている。「あいご」は今も便利な通路として使われており、昔の近所付き合いや生活道として大切にされている。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

海商通りは、江戸時代から明治時代にかけて、北前船の寄港地として回船問屋などで栄えた室積の面影を色濃く残している。山陽海路の要所として、繁栄したまちなみとそこに住む人の生活が「あいご」を育ててきた。

■ 景観の見方（主な視点場）

視点場は海商通りの各所にある。「あいご」を散策すれば、潮の香りが漂う港町の雰囲気を楽しむことができる。



アクセス

所在地：光市室積

● 電車：JR山陽本線光駅→バスで約20分(室積)

● 車：山陽自動車道徳山東ICから約30分



■ 景観の特徴、地域特性

山の中腹から八合目あたりにかけて、約2.5kmにわたって表面が平らに美しく加工された列石（岩を割って作った石）による石積みが並べられている。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

神籠石は、九州北部から瀬戸内海沿岸にかけて分布し、このうち石城山を含む9箇所が国の史跡に指定されている。昭和30年代の発掘調査により朝鮮式山城であることが明らかとなったが、築造の歴史など今なお多くの謎が残されている。

■ 景観の見方（主な視点場）

遊歩道を歩きながら神籠石を観察し、誰が、何のために築造したのか、歴史に思いを巡らすのも楽しい。



所在地：光市塩田
アクセス ● 電車：JR山陽本線岩田駅～バスで約20分(須賀社)
● 車：山陽自動車道熊毛ICから約20分



■景観の特徴、地域特性

この橋は増水のたびに水に浸かり、あたかも潜るようなその様相から潜水橋とも呼ばれている。夏には、子どもたちの水遊び風景も見られ、人々の生活の営みが感じられる。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

旭橋は、昭和33年に架橋され、市内にある潜水橋2橋のうちの1橋である。河原では、地元の保存会による伝統行事火祭り「すおうほしらまつ周防柱松」が開催され、光市を代表する夏の風物詩となっている。

■景観の見方（主な視点場）

視点場は県道沿いの駐車場である。旭橋は昔からの生活道であり、歴史や橋の説明を知ると、より興味深く見ることができる。



所在地：光市たての立野
アクセス
 ●電車：JR山陽本線島田駅～バスで約5分(立野)
 ●車：山陽自動車道熊毛ICから約10分



■ 景観の特徴、地域特性

室積・虹ヶ浜海岸は、山口県を代表する白砂青松の海岸である。弓なりに続く砂浜を一望でき、松林の緑と砂浜の白と海の青のコントラストが美しい。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

室積・虹ヶ浜海岸は、瀬戸内海国立公園に位置し、「日本の白砂青松百選」「日本の渚百選」などに選定されている。多くの市民が参加する「クリーン光大作戦」をはじめ、市民のボランティア清掃活動により美しい海岸が維持されている。

■ 景観の見方（主な視点場）

室積海岸は、峨嵋山や室積半島を背景にした景観が美しい。虹ヶ浜海岸は、黒松林から海浜に出たあたりから砂浜を眺望するのがよい。



アクセス

- 所在地：【室積海岸】光市室積松原他
●電車：JR山陽本線光駅～バスで約15分(室積新開)
所在地：【虹ヶ浜海岸】光市虹ヶ浜2丁目他
●電車：JR山陽本線光駅～徒歩で約5分



■ 景観の特徴、地域特性

光市の南東部の海岸は、山が海に迫り、岩場が多い海岸となっており、海岸沿いに国道188号が通っている。国道から、迫力ある岩場や瀬戸内海の島々を望むことができる。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

伊保木海岸は、砂浜のほとんどない荒々しい岩場が約5kmに亘り続いており、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸とは対照的な海岸となっている。また、国道沿いの伊保木・岩屋地区は窯元があり、陶芸の里となっている。

■ 景観の見方（主な視点場）

国道をドライブしながら、室積・虹ヶ浜海岸との対比を実感したり、車を止め、岩場に降り、磯の香りを感じるの心地よい。



所在地：光市室積村
 アクセス ● 電車：JR山陽本線光駅～バスで約25分(伊保木)
 ● 車：山陽自動車道徳山東ICから約30分



■ 景観の特徴、地域特性

室積半島の先端からのびる象鼻ヶ岬は、室積の沖にあった島が、砂洲によって陸につながって出来た陸繋島であり、天の橋立になぞらえて「周防橋立」とも呼ばれている。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

岬の峨嶮山に茂る暖帯性樹林は、国指定天然記念物に指定され、今も原生林に近い姿を留めている。また、室積湾に面する室積は山陽海路の要衝として栄え、歴史ある古いまちなみが残されている。

■ 景観の見方（主な視点場）

多賀神社付近から見る室積湾は、室積半島と一体となっておりその曲線美が美しい。



アクセス

所在地：光市室積

- 電車：JR山陽本線光駅～バスで約20分(室積)
- 車：山陽自動車道徳山東ICから約30分



■景観の特徴、地域特性

御幸通り^{みゆき}の街路樹が色とりどりのイルミネーションで飾り付けられ、その一帯は幻想的な雰囲気^{みゆき}に包まれる。ツリーまつりの時期には多くの見物客で賑わい、周南市の冬の風物詩となっている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

昭和60年、徳山駅北口正面に伸びる御幸通りの18本の街路樹に、レインボーイルミネーションとして七色の電飾が付けられたのが始まりである。現在では、周辺の商店街も協力して、地区全体で美しい冬の景観を見せてくれる。

■景観の見方（主な視点場）

駅ビルから通り全体を眺めることができる。また、12月23日は御幸通りが歩行者天国となるので、ツリーを見上げながら通りをゆっくり歩くのがよい。



アクセス

所在地：徳山駅北口周辺

●電車：JR山陽本線徳山駅北口



■景観の特徴、地域特性

八代地域では、昔からツルのねぐらを整備するなど、地域全体でツルの保護に取り組んできた。美しい山里の風景の中で、ツルが餌をついばむ姿などを観察できる。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

八代地域は本州で唯一のナベヅルの飛来地である。以前は多くの飛来が見られたが、近年では水田の減少に伴ってねぐらが減少し、飛来数も減少している。現在、八代のツル及びその飛来地は国の特別天然記念物に指定されており、昭和39年に公募により県鳥として選定された。

■景観の見方（主な視点場）

野鶴監視所では双眼鏡や監視ビデオが設置されていて間近に見ることができる。



- 所在地：周南市八代野鶴監視所
 アクセス ●電車：JR岩徳線高水駅～車で約15分
 ●車：山陽自動車道熊毛ICから約15分



■景観の特徴、地域特性

年末年始には、海沿いに連なる工場群が夜間、全灯を点灯して帰省客を出迎える。新幹線の車窓から見るコンビナートの夜景は美しく、ふるさとに帰ってきたことを実感する。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

戦前から県内有数の工業地帯であった周南地区は、戦後もさらに企業誘致を進め、現在では基礎素材型産業を中心に全国有数のコンビナートが立地している。

■景観の見方（主な視点場）

太華山^{たいかざん}、市街地周辺の高台や新幹線の車窓から見るコンビナートの夜景は、宝石をちりばめたように見える。



所在地：徳山湾沿い

アクセス

●電車：JR山陽新幹線徳山駅～新岩国駅間

（下り列車の場合、徳山駅手前左手に見える）



■景観の特徴、地域特性

車のスピードを抑制して歩行者に快適な歩行空間を与えるコミュニティ道路が全国的に展開し始めたころ、県内ではいち早く整備された。電線類の地中化や植栽・彫刻・ベンチなどにより景観に配慮した道路空間となっている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

商店街の活性化を目的として整備され、平成2年3月に完成した。平和通りの「平和」（Peace）、御幸通りの「幸」（Happy）の頭文字をとった「ぴーえっち」の名称は、1,000件以上の一般公募から選ばれた。

■景観の見方（主な視点場）

ぴーえっち通りを歩きながら周辺を眺めると、心地良い空間の広がりを感じられる。



アクセス

所在地：周南市御幸通2丁目～平和通2丁目

●電車：JR山陽本線徳山駅～徒歩で約3分



■景観の特徴、地域特性

周南市鹿野の旧山代街道沿いには、江戸時代の名残を留める白壁や赤瓦の家屋が残っており、趣のあるまちなみ景観が形成されている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

周南市鹿野地区は江戸時代、萩・岩国を結ぶ山代街道の宿場町として賑わっていた。現在でも、岩崎家の建物や「超世丸」の看板など、当時の面影が残っている。

■景観の見方（主な視点場）

街道を歩くとき歴史あるまちなみを感じることができる。また、天神山から見ると家屋の赤瓦が周囲の緑によく映え、素晴らしい眺望景観である。



アクセス

所在地：周南市鹿野

● 車：中国自動車道鹿野ICから約5分



■ 景観の特徴、地域特性

公園の展望台から、春は川沿いの桜、秋は山腹の紅葉など、四季の移り変わりを楽しむことができる。また、公園内や遊歩道には童謡・唱歌の歌碑が30基並んでおり、歌碑を眺めていると子どもの頃の思い出がよみがえる。

■ 景観が育まれてきた経緯(歴史、文化等)

両岸には300本の桜が植えられており、地域のボランティアにより大切に守られている。また、昭和63年に旧建設省によりふるさとの川モデル事業の認定を受け、護岸や公園の整備が進められた。

■ 景観の見方(主な視点場)

毎年4月上旬には「さくら祭り」が開かれる。川に架かる中央橋から北方向に桜並木を眺めると美しい。



アクセス

- 所在地：田布施町下田布施
- 電車：JR山陽本線田布施駅～徒歩で約5分
 - 車：山陽自動車道熊毛ICから約20分、玖珂ICから約30分



■景観の特徴、地域特性

一の坂川はまちの中心部を穏やかに流れる。兩岸に桜並木が約600mにわたって続き、その背後には古いまちなみがうかがえ、周辺環境の調和が保たれている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

室町時代、大内氏おおうちしがまちづくりをする際に、京都の鴨川かみがわを模したといわれている。日本で初めてホテル護岸工法が実施され、今ではホテル鑑賞やイベントの中心地として賑わいを見せている。

■景観の見方（主な視点場）

川沿いの道を歩きながら眺めたり、各橋の途中から眺めるのがよい。桜開花期間にはライトアップされる。



アクセス

所在地：山口市後河原うしろがわら

●電車：JR山口線山口駅～徒歩で約15分

●車：中国自動車道山口ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

旧暦の七夕、中心商店街に数万個の提灯が飾られ、紅い光に包まれる。夜空に提灯が連なる様子は歴史絵巻を見ているかのようなのである。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

室町時代にこの地を治めていた大内盛見が父母の冥福を祈るために笹竹の上に高灯籠を灯したのが始まりで、それが今日の地域の盆行事になったと伝えられている。やがて、高灯籠から手軽な提灯に変わっていった。

■景観の見方（主な視点場）

商店街に飾られた数々の紅提灯の中を歩くと、炎のトンネルを思わせ、幻想的に感じられる。



アクセス

所在地：山口市米屋町他

- 電車：JR山口線山口駅～徒歩で約5分
- 車：中国自動車道山口JICから約10分



■景観の特徴、地域特性

県道沿いに手作りの石垣が連なっている。この石垣は、大小の石を組合せた安定感のある石積みで、地域の人々が狭い土地を大事にしてきたことがうかがえる。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

この棚田は奈良時代から明治時代にかけて、千年を越す時を経て築かれた。最近では、農業の活性化や地域交流を目指すとともに、景観資源を保全するため、三谷いしがき棚田会による棚田オーナー制度の取組がなされている。

■景観の見方（主な視点場）

県道沿い数kmにわたって石垣群が点在している。折れ曲がりの道が連続しており、移動しながら石垣と棚田を楽しむことができる。



アクセス

所在地：山口市徳地三谷

● 車：中国自動車道徳地ICから約15分



■ 景観の特徴、地域特性

嘉川八幡宮は、山裾の緩やかな傾斜の南側斜面にある。境内に立って見下ろすと嘉川の田園地帯が広がり、この神社に見守られてきたことが想像できる。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

八幡宮は、社伝によると751年に宇佐八幡宮から分霊が祭られたことが始まりとされ、正和4年（1315年）に焼失したが、その後、現在の地に再建されたといわれている。また、昭和57年に市の有形文化財に指定された木造隨身像が保存されている。

■ 景観の見方（主な視点場）

八幡宮の境内から参道を見下ろすとその先に嘉川の田園風景を一望できる。



アクセス

所在地：山口市嘉川

- 電車：JR宇佐線上嘉川駅～徒歩で約20分
- 車：中国自動車道小郡ICから約15分



■景観の特徴、地域特性

シーズン中には4万本の大根が干される。寒風にさらすことで大根が乾燥し、白色からあめ色に変化していく。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

大根を寒風にさらして乾燥させることから「寒漬」と呼ばれるようになったといわれる。古くは戦国時代に保存食として用いられたという説もあるが、加工品として広く作られるようになったのは明治時代中期頃からである。

■景観の見方（主な視点場）

みなみいらい
南祝区の県道や、JR宇部線の電車内から
見ることができる。また、近づくとき独特の
匂いを感じることができる。



アクセス

所在地：山口市阿知須南祝区

- 電車：JR宇部線阿知須駅～徒歩で約10分
- 車：山口宇部有料道路阿知須ICから約10分



■ 景観の特徴、地域特性

周防大橋は、白い姿と形状からこの川に多く住む白鷺を連想させ、瀬戸内の穏やかな自然景観と調和している。また、この辺りの海は、遠浅で干潮時には橋を背景に広大な干潟が現れ、潮の干満により様々な景観を楽しむことができる。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

周防大橋は、平成4年に完成した斜張橋で、白鷺が羽を大きく広げたような優雅な姿が特徴である。

■ 景観の見方（主な視点場）

藤尾山頂上からは、榎野川河口に架かる橋の様子を一望できる。この山は標高が低く遊歩道もよく整備されており、快適な散策コースとなっている。



アクセス	所在地：山口市佐山～秋穂二島
	● 電車：JR宇部線周防佐山駅～徒歩で約30分
	● 車：山陽自動車道山口南ICから約25分



写真提供者：小山哲彦さん



■ 景観の特徴、地域特性

サビエル記念聖堂は白色の近代的な建物である。亀山公園の周りから見える白い塔は周辺の山や公園の緑と調和しており、市のランドマークとなっている。また、鐘の音は山口の時を刻み、多くの市民に親しまれている。

■ 景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

サビエルが山口を訪れてから400年を記念し、昭和27年に木造の旧聖堂が建てられ長い間親しまれていたが、残念ながら平成3年に焼失した。イエズス会の資金援助、市民及び全国からの募金などにより、平成10年に新しい記念聖堂が再建された。

■ 景観の見方（主な視点場）

中心市街地やパークロードから白い尖塔が見え、自分好みの視点場を探してみることも面白い。周辺に鳴り響く鐘の音も心地よい。



アクセス

所在地：山口市亀山町

● 電車：JR山口線山口駅～徒歩で約15分

● 車：中国自動車道山口ICから約10分



■ 景観の特徴、地域特性

唐樋^{からひ}は潮の干満で自然開閉するのに対して、南蛮樋は人力によって開閉するものである。この南蛮樋は長方形の石材が積み上げられてできており、周辺の干拓地と調和した景観となっている。

■ 景観が育まれてきた経緯 (歴史、文化等)

山口市の榎野川^{ふしのがわ}の河口部にあり、1774年に完成した。1923年に沖合に干拓地が完成したため、樋門としての機能は不要となった。近年、地域住民の保存要望や遺跡整備基本計画の策定など、この遺跡の保存に向けた取組がなされている。

■ 景観の見方 (主な視点場)

おむすび形の貯水池周辺の遊歩道南側から見る事ができる。貯水池には様々な水鳥が生息し、野鳥観察も楽しめる。



アクセス

所在地：山口市名田島

● 電車：JR新山口駅～バスで約20分(新築橋)

徒歩で約10分

● 車：山陽自動車道山口南ICから約15分



■景観の特徴、地域特性

阿知須の縄田地区には、なまこ壁と白壁が目を引き「居蔵造」と呼ばれる独特の民家が軒を連ねている。その裏路地は迷路のようになったところがあり、両側のなまこ壁、赤レンガ、板塀、生垣は変化に富んだ景観をつくり出している。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

江戸時代から昭和初期にかけて、廻船業の港町として栄えた阿知須浦には、今なお居蔵造の懐かしい家並みが残り、かつての栄華を物語っている。最近では、昔の面影を残すため、建物の修復工事が行われている。

■景観の見方（主な視点場）

表通りは修復された「居蔵造」のまちなみが残っている。また、迷路状の裏路地を歩くと、様々な壁の模様や趣のある家並みを見ることができる。



アクセス

所在地：山口市阿知須縄田

●電車：JR宇部線阿知須駅～徒歩で約15分

●車：山口宇部有料道路阿知須ICから約10分



■景観の特徴、地域特性

国宝に指定されている五重塔は9基あるが、そのうち檜皮葺きの屋根をもつのは2基しかない。歴史的価値は非常に高く、大内文化を優雅に伝えている。背後に山が迫り、周辺の山々と塔が織りなす四季の移り変わりは素晴らしい。



写真提供者：小山悟彦さん

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

この塔は、大内盛見おのおうちもりはるが兄・義弘よしひろの菩提ぼだいを弔うために建設を始めたものであり、1442年に完成した。大内文化の最高傑作であり、日本三名塔のひとつに数えられている。

■景観の見方（主な視点場）

香山公園こうざんの池越しに仰ぎ見る景観がよく知られている。また、背後からまちを望むと、創建当手を想像することもできる。

アクセス

所在地：山口市香山町

- 電車：JR山口線山口駅～バスで約15分
(香山公園五重塔前)
- 車：中国自動車道山口ICから約10分





■景観の特徴、地域特性

凌雲寺は永正4年(1507年)頃、大内義興おおうちよしおきが創建したと伝えられている。大内氏滅亡後、いつの時代かに廃寺となったと考えられ、現在は山門の石垣の一部が残るのみである。遺跡は、背後に鳳ほう翻ばん山ざんがそびえる丘陵地にあり、周辺の田園風景と調和している。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

大内義興の死没後はこの寺に葬り、その菩提寺となった。その遺構は、寺院としては異例なほど豪壯雄大な石垣などであることから、有事に備えた一種の城塞を兼ねたものであったと考えられる。

■景観の見方（主な視点場）

丘陵地を登り視界に広がる石垣を見ると、かつて隆盛を極めた寺院の壮大さが想像できる。



アクセス

所在地：山口市吉敷 中尾

●電車：JR山口線山口駅～バスで約25分(中尾口)

徒歩で約20分

●車：中国自動車道小郡ICから約40分



■景観の特徴、地域特性

SLやまぐち号が走る姿は、山口線沿線の様々な場所で、線路の間近から見る事が出来る。新山口を出発し、湯田温泉、山口、ちようもんきよう長門峡を通り、津和野までの62.9kmを約2時間かけて走る。



■景観が育まれてきた経緯 (歴史、文化等)

SLやまぐち号は、昭和40年代の全国的な蒸気機関車の廃止後、多くの鉄道ファンや地元の要望により昭和54年に復活した。機関車C571は「貴婦人」の愛称で親しまれている。

■景観の見方 (主な観点場)

黒煙を吐きながら走る姿、山間に響く汽笛、力強い動力音、石炭を燃やす匂いなどは、懐かしさを感じられる。



アクセス 所在地：JR山口線沿線



■景観の特徴、地域特性

東大寺別院の阿弥陀寺境内には、80種約4,000本のあじさいが植えられており、6月には色とりどりの花が咲く。また紅葉の時期には、こけむす参道の石段が、もみじの葉で紅く染まり、訪れる参拝客の心を和ませる。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

俊乗房重源上人により創建された古刹「阿弥陀寺」は、周辺を緑で囲まれた閑静な場所に位置し、境内をあじさいで彩られることから、あじさい寺として知られている。

■景観の見方（主な視点場）

仁王門をくぐり参道沿いから境内や本堂を背景に池越しに見るあじさいが美しい。紅葉の時期は、参道の石段下からの眺めがよい。



アクセス

所在地：防府市^{むれ}牟礼

- 電車：JR山陽本線防府駅～バス約25分(阿弥陀寺)
- 車：山陽自動車道防府東・防府西ICから約20分



■景観の特徴、地域特性

境内にある数多くの梅は、2月～3月に一斉に花を付け、その香りは境内いっばいに広がり春の訪れを教えてくれる。天満宮では、梅の花が咲く時期が1年の中で最も華やかな時期である。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

防府天満宮は菅原道真公すがらのみちざねが祀られている日本三天神のひとつと称されている。道真公は九州へ西下の途中防府に立ち寄り、太宰府に旅立つ際には歌に詠むほど梅の花を愛した。道真公が延喜3年（903年）に亡くなった翌年、日本で最初の天満宮として創建された。

■景観の見方（主な視点場）

表参道の階段を上ると境内の右側に梅園があり、その中を散策することができる。他にも沢山の梅園が境内にある。

アクセス

所在地：防府市松崎町

- 電車：JR山陽本線防府駅～徒歩で約15分
- 車：山陽自動車道防府東・防府西ICから約10分





■景観の特徴、地域特性

三田尻御舟倉跡の東側小路を少し山手しやうじに向けて歩くと、その先に石畳を残した辻曲つじまがりの緩やかな坂道がある。400年前に商人達が行き交っていた当時を偲しのぶせる道筋である。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

石畳はかつて街区を整備する際、辻曲つじまがりに使用したものであり、今も当時のままの石畳や石垣、馬つなぎ石の一部が残っている。

■景観の見方（主な視点場）

わずかに残る石畳を、隣接する御旅所境内の南端にある桜の木の下に腰掛け、昼間の日差しの中、のんびりと見るのがよい。



アクセス

所在地：防府市東三田尻

●電車：JR山陽本線防府駅～バスで約10分（自力東町）徒歩で約10分

●車：山陽自動車道防府東・防府西ICから約20分



■景観の特徴、地域特性

通り沿いにある大屋根の瓦葺き建物は、現在は醤油製造蔵となっているが、江戸時代に建てられたもので、外廊は建築当時のまま残されている。この周辺のまちなみは、三田尻港が栄えていた頃の面影を今に伝えている。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

この醤油蔵は江戸時代には長州藩の「御囲^{おかこいもみぐら}糶蔵」であったが、明治時代に醤油工場となった。この時、建物内部は大幅に改造されたが、外廊の一部はそのまま残され、今日に至っている。

■景観の見方（主な視点場）

煉瓦で高く積まれた煙突を目印に道筋から海に向かって見るのが良い。ふらっと脇小路に入っても風情を感じることができる。

アクセス	所在地：防府市三田尻二丁目
	●電車：JR山陽本線防府駅～バスで約10分（自力 ^{じりき} 東町）徒歩で約10分
	●車：山陽自動車道防府東・防府西ICから約20分





■景観の特徴、地域特性

神社の参道の両側にしだれ桜の古木が連なっており、開花時期には桜のトンネルになる。地域の人々のお花見の格好の場所であるとともに、遠方からも多くの観光客で賑わう。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

文政8年（1825年）氏子有志によって植栽されたと伝えられるが、当時の桜は老木となり、多くは枯死した。その後、補植されたり、接木され、近年はボランティア団体によって保全活動が行われ、往年の状態に戻つつある。

■景観の見方（主な視点場）

参道入り口から神社を見上げるか、神社から参道を見下ろすと直線に約200m続く桜のトンネルを眺めることができる。



所在地：阿東町徳佐中

- アクセス ●電車：JR山口線徳佐駅～徒歩で約5分
●車：中国自動車道山口ICから約70分



■ 景観の特徴、地域特性

りんごの実る夏から冬にかけて、国道の両側に防風用のブルーのネットをかけたりんご園が広がっている様子が見渡せる。鈴なりに赤く実ったりんごは、来た人の目と舌を楽しませてくれる。

■ 景観が育まれてきた経緯 (歴史、文化等)

阿東町の冷涼な気候を生かして、昭和21年にりんごの栽培が開始され、徳佐下地区を中心に観光りんご園として整備が進められた。現在は、西日本最大規模の観光りんご園として多くの来場者で賑わいを見せている。

■ 景観の見方 (主な視点場)

車窓からりんごの木々を眺めたり、りんご園で赤く実ったりんごを食べるなど、五感で感じることができる。



アクセス	所在地：阿東町徳佐下 周辺
	●電車：JR山口線鍋倉駅周辺
	●車：中国自動車道山口ICから約60分



■ 景観の特徴、地域特性

阿武川中流にある長門峡は山口県を代表する渓谷として知られ、巨岩、急流、深淵、滝などが連続し、周辺の森林と一体となった美しい渓谷となっている。遊歩道が整備され、秋の紅葉はもちろんのこと、新緑の時期も多くの観光客で賑わう。

■ 景観が育まれてきた経緯 (歴史、文化等)

長門峡は、古くは「長門耶馬溪」と言われていたが、1920年ごろ画家高島北海^{たかしまほつ}によって「長門峡」と名付けられた。大正12年に国指定の名勝となり、また、昭和57年に「21世紀に残したい日本の自然百選」にも選ばれている。

■ 景観の見方 (主な視点場)

竜宮淵側と道の駅「長門峡」側の2方向から徒歩で行けるので、視点を変えながら色々な風景を体感するのがよい。



アクセス

所在地：阿東町篠目^{しのみ}

- 電車：JR山口線長門峡駅～徒歩で約5分
- 車：中国自動車道山口ICから約40分

57

とくさがみね
ため池に映る十種ヶ峰の姿（阿東町）

■景観の特徴、地域特性

山の谷間に造られた野道ため池の堰堤対岸に立つと、真正面に十種ヶ峰を見ることができる。ため池に水が張った時期には堰堤で切り取られた十種ヶ峰の美しい姿が逆さに写しこまれる。

■景観が育まれてきた経緯（歴史、文化等）

十種ヶ峰は美しい自然に恵まれ、冬季に積雪もあることから、山口県青少年野外活動センターやスキー場・オートキャンプ場が整備された。昭和57年に「21世紀に残したい日本の自然百選」に選ばれている。

■景観の見方（主な視点場）

堰堤の対岸に立つと、前面にそびえる十種ヶ峰とため池の水面に映りこんだ十種ヶ峰を同時に見ることができる。



アクセス

所在地：阿東町徳佐下

●電車：JR山口線徳佐駅～車で約5分

●車：中国自動車道山口ICから約80分